

### 「日本学術振興会育志賞」授賞式 学術研究の発展へ、大学院博士課程学生19名を表彰

日本学術振興会は3月3日、日本学士院会館(東京都台東区上野)において、秋篠宮皇嗣同妃両殿下ご臨席のもと、「第16回日本学術振興会育志賞」授賞式を執り行った。



秋篠宮皇嗣同妃両殿下が見守るなか行われた授賞式

同賞は、日本の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生を顕彰することで、勉学及び研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的として創設されたもの。今回、20〜30代の19名が選ばれた。受賞者には学業奨励金110万円が贈呈される。

式典では、日本学術振興会理事長の杉野剛氏から代表者に賞状、賞牌が授与された。また、柿田恭良文部科学審議官が松本洋平文部科学大臣の祝辞を代読し、「受賞された皆さまが今後も意欲的に研究活動に取り組み、学術研究をけん引していただくことを期待する。文部科学省としても、次代を担う若手研究者たちが独創的な研究に専念できる研究環境の整備など、研究力の強化に向けた取り組みを推進していく」と述べた。

最後に、受賞者を代表して長崎大学の長谷川悠波氏があいさつ。ニホンウナギの稚魚の行動に関する研究で受賞した長谷川氏は「私の研究領域はすぐに人の生活を豊かにするものではないが、未知の現象を解き明かす基礎研究の成果が、人類の知の限界を広げると同時に、社会実装を担う応用研究を支える礎になると信じている。受賞者一同、未解明の物事に挑戦することの楽しさや新たな現象を発見する興奮を次の世代につなげられるようまい進し続ける」と意気込みを述べた。

### 「工学と女性」テーマに 国会議員と科学者が意見交換

公益社団法人日本工学アカデミー主催の「政治家と科学者の対話の会」が3月3日、都内の衆議院議員会館で開かれ、写真、工学と女性をテーマに議論が行われた。



会合では、工学アカデミーのジェンダー委員会委員長である行

ス・バイアス(無意識の思い込み)が若い人たちの進路に大きな影響を与えている」と強調。その上で、初等中等教育から産業界まで一貫したジェンダー統計の整備、統計データを活用した客観的調査・評価、産学官や省庁横断の総合的施策の必要性を訴えた。

議員からは、「理系のジェンダーバランスについては昔から言われていること。統計データがなければ何も始まらない。きちんと収集してベンチマークをしていかなければならない」「雇用の流動性を高めて、そこに女性が入っていただくことが重要」などの意見が出された。また、政治学が専門の牧原出氏(東京大学教授)は「東大でも女性の研究者をどう増やすか議論している。個人的な意見だが、入試において国語の配点を増やせば変わるのではないかと語った。

木陽子氏(中央大学特任教授)が講演し、工学分野における女性の活動などについて話題提供が行われた。文部科学省の学校基本統計によると、大学(学部)学生に占める女性割合で、工学部は17.9%となっており、他学部

会合だったが、公明党や中道改革連合など野党議員も出席。中道の河西宏一衆院議員は「高市政権における危機管理投資、科学技術に対する投資については非常に期待感を持っている。国会においても、建設的な議論を展開していきたい」と述べた。

に比べて圧倒的に低い。行木氏は「父親・母親世代に根強く残るアンコンシャ